

基礎講座

「呼吸の自律神経調節と良導絡自律神経調整療法」

群馬リハビリテーション病院
内科・リハビリテーション科
西 勝久

呼吸は、人が生きていくために不可欠な生命活動である。

呼吸には、外呼吸と内呼吸がある。

基礎講座では、自律神経、中枢神経、効果器を介した呼吸調節を現代医学的に説明する。

内呼吸は、現代医学的には、解糖系、電子伝達系、ATP-CP 系でアデノシン三リン酸(ATP)をつくり出すことである。この系は東洋医学の臓腑経絡理論と合致している。臓腑経絡理論ではエネルギー（気）を産出する系は肺、大腸、胃、脾である。現代医学的にはこれらは内胚葉から発生し、体の前面に位置する臓器である。

黄帝内経靈樞：経脈篇に「経脈之始生」と記載があり、発生針灸医学を唱える石井陶泊先生は「経絡の発生は個体発生である」、「経絡は人体の組織すべてである」という。経絡には縦方向の流れがあり、陰経は上行性、陽経は下行性である。この縦方向上下の流れの原始は内胚葉、中胚葉、外胚葉の区別しかない原腸胚時に、原口から主に内胚葉が内側に陥入反転して上方動物極の歩行に上行することにある。神経系が発達する前より経絡が存在し、その経絡の流注も発生しているのである。経絡は人体組織すべてである。現代に伝わる経絡図は「臓器、筋肉、脈管、骨、結合組織、神経を含む大きな経絡」の状態を反映する反応点あるいは治療点を示した図である。その反応点かつ治療点を中谷義雄先生は、ノイロメーターで電氣的に発見し、良導絡と名付け、大きな経絡(人体の組織全て)を調整する方法として、良導絡自律神経調整療法を創出したのである。

気管支喘息は呼吸器系の疾患であるが、良導絡チャートにおいて H1 良導絡に興奮・抑制が現れないことがある。むしろ F3 や F6 に異常がでることがある。中谷先生も良導絡チャートを疾患名と結びつけて考えるよりも良導絡の経路上に臓器があることを考慮して、良導絡チャートをながめ治療することを推奨している。

良導絡は経絡と同様に、人体の組織すべてを電氣的に観察しうる系である。現代的な一つの系のみからの研究では良導絡は把握しきれない。日本良導絡自律神経学会は、現代医学、東洋医学を網羅した「良導絡医学」として発展すべきである。